

# 明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2017年11月17日  
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)  
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

84号

子どもたちが主人公の映画を続けて観ました。デンマークの養護施設から抜け出そうとする兄弟の「きっといい日がある」、小5女子のいじめと友情を描いた韓国作品「わたしたち」、やんちゃな中学生2人の冒険旅行「50年後のボクたちは」(ドイツ)、マニラのスラム街で健気に生き抜く少女「プランカとギター弾き」、無垢な弟と思春期の兄の初恋と葛藤を描く「草原に黄色い花を見つける」(ベトナム)、そしてナチスから命懸けの脱出行のリーダーを務めた13歳「少女ファニーの運命の旅」。国や民族、時代を超えて共通しているもの……、子どもたちの世界は自由で力が溢れ、その思いは素直でひたむき、大人たちの理不尽な抑圧や支配に傷つけられながら、負けまいとする精神は痛いくらい眩しく可能性に満ちています。取り巻く環境は悪くなる一方ですが、子ども自身は変わっていない、私たち大人の責任は重い、とあらためて思います。(Y・S)

## 新・保育所保育指針

### 何が変わる？ 何が大事？

2018年4月より「新・保育所保育指針」が施行されます。10年ごとに改訂されてきた「保育所保育指針」(以下「指針」と表記)ですが、今回の改訂のポイントはどこにあり、私たち現場の保育士はそれをどう捉え、何を大事にして保育をしていくべきなのでしょう。日頃の保育を振り返りながら考えてみました。

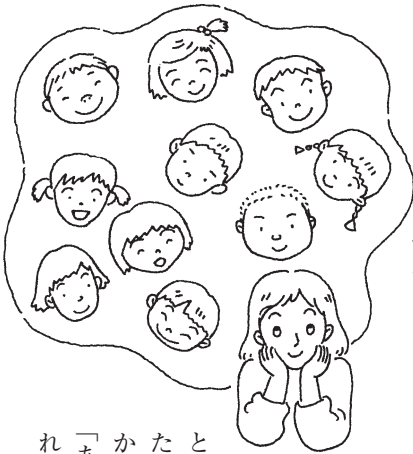
#### 改訂のポイント

今回の改訂では、初めて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10項目掲げられ、さらに小学校との「円滑な接続」が強調されるなど、保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけがなされています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目は以下のとおりです。

- ①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現。

#### 「育ってほしい姿」をどう見るか

私は、かつて学童クラブに勤務し、8年間小学生と過ごしてきました。学童クラブには、新1年生が入学式よりも前に保育園からやってきます。その子たちは、最初、初めての場所や友達に対して不安そ



「穴、あったね。何が入ってるのかな」と言うと、再びその穴をのぞきこみ、保育士の顔をもう一度見ます。そして、保育士が「あったね」と共感すると満足し、また歩き出さずにはすぐにかを見つめ、そしてまた「あった」と教えてくれます。保育士が「穴、あったね。何が入ってるのかな」と言うと、再びその穴をのぞきこみ、保育士の顔をもう一度見ます。そして、保育士が「あったね」と共感すると満足し、また歩き出さずにはすぐにかを見つめ、そしてまた「あった」と教えてくれます。

なかなか進まないお散

## 子どもの世界

～陽光保育園～

### 0 歳児 — 「こっこ〜！」

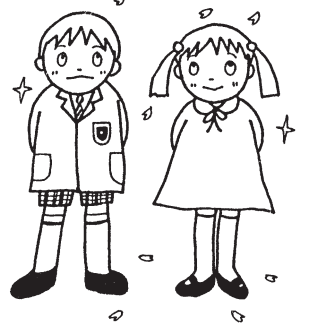
『じゃあじゃあびりびり』の絵本がお気に入りのR君。特に、にわとりが登場するページが大好きで、保育士が「コッコ〜！」と読むと、真似っこして「こっこ〜！」と上を向いて叫びます。

### 0 歳児 — 発見名人

発見名人のUちゃんは、毎回お散歩でいろんなものを発見します。民家の窓辺のぬいぐるみや、道端の穴、プランターのお花など……。そのたびに「あった！」と指さし。なかなか進まないお散歩も楽しいものです！

### 1 歳児 — 水が消えた？!

砂場に水が浸透していくのをジーンと見ていた1歳児のYちゃん。「(みず)いなし いなし」とビックリしたように指さして教えます。大人が「なくなっちゃったね。どこ行ったのかなあ」と言うと、持っていたシャベルで水のあったあたりを掘り始めました。ほっこりかわいい出来事でした。



いくことで、子どもたちは次は何があるかな？と期待をもったり、こんなことをやってみたいという意欲につながっていくのだと感じます。

小学生でも0歳児でも「一人ひとりが受けとめられ、認められること」「楽しいやり取りや遊びがあること」が大事であることに変わりはありません。

#### 子ども自身の願いを優先して

今回の改訂指針では、小学校との円滑な接続が強調されていますが、何をもって円滑というのでしょうか。

私は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を初めて読んだとき、まるで「育ってほしい姿」に到達していないと小学生にはなれないと言われているかのように感じてしまいました。

「育ってほしい姿」に到達し、横一線で小学生になることが「円滑」なのではなく、小学生になることに期待と喜びをもてるようにすることがほんとうの意味で「円滑な接続」ではないかと思えます。

上からの押しつけのようなく「育ってほしい姿」が先にあるのではなく、子ども自身の手で「こっこ〜！」という願いが先にあることが保育のなかでは大事であり、保育士や家族、友だちの支えのなかで子ども自身がその願いに向かう経験を積みながら、「自分って、すごい！」と、たくさん

●陽光保育園●  
親子でいっしょにあそびましょう

今年度はあと4回です。  
12月19日(火) 1月16日(火)  
2月20日(火) 3月6日(火)

\*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。詳しくは下記までお問合せください。  
☎03-3956-1068

#### 社会福祉法人陽光会◎近況

●桜台第二保育園●

敬老の日にあわせて5歳児は、いつもお世話になっているおじいちゃん、おばあちゃんをお招きして、楽しい会を行いました。オセロやトランプ、折紙を教えてもらったり、一緒に給食を食べたり、楽しいひと時を過ごしました。最後に感謝の気持ちを込めて手作りのコースターをプレゼントしました。「おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう！」

●陽光保育園●

陽光保育園では月1回、クラスごとに好きな献立を決めることができる「お好み献立の日」があります。9月はあひる組(2歳児クラス)でした。その献立は……「鶏わかめうどん」「鮭のパン粉焼き」「切干大根の煮物」と、普段から和食好きなクラスならではのメニューが並びます。

当日、大好きなものはかりを前にした子どもたちの食べるスピードの速さといった「おかわり」の声に大人の対応が追いつかないほど。おかわりをたくさんしたのに、いつもより早く食べ終わる、その後、たっぷり遊ぶことができました。おなかも心も満腹になったかな。

●北町保育園●

10月10日、光が丘地域の委託園6園の年長児が「プレーパーク合同遠足」で交流しました。光が丘公園の自然の中での遊びをたっぷり楽しんだ子どもたち。雨どいを使ったどんぐり転がしに夢中になり、友だち同士で相談しながら椅子や玩具を上手に組み合わせ、工夫して遊んでいました。

●板十小あいキッズ●

あいキッズでは、10月25日実施の「工作あそびフェスティバル」に向けて、子どもたちの発表を大事にしながゲームや工作の店を作り上げていきました。射的、バルーンアート、ミサンガ、的当ての4つの店です。

当日はあいにくの雨で室内だけの開催になったため、クラブ室は詰めかけた子どもたちで熱気ムンムン。お客さんとして、あいキッズの子どもたちだけでなく、陽光保育園のかもしれない子どもたちも来てくれました！



お好み献立の日、お気に入りのメニューが並び、大喜び



ミサンガ作りに動んでいます

ごあんない

- 陽光保育園●
- 冬のバザー 12月3日(日)10時
  - ただじゅん公演 1月16日(火)10時
  - 荒馬座ミニ公演 2月6日(火)10時
  - 地域共育講座 2月9日(金)18時30分
  - 卒園式 3月21日(祝)9時
  - \*会場はすべて陽光保育園ホールです。
- 北町保育園●
- 地域共育講座 11月24日(金)18時30分
  - 新年のお祝い会 1月17日(火)10時
  - 荒馬座ミニ公演 2月21日(水)10時
  - 卒園式 3月17日(土)9時30分
  - \*会場はすべて北町保育園ホールです。
- 桜台第二保育園●
- 新年のついで(獅子舞) 1月11日(水)10時
  - 卒園式 3月17日(土)9時30分
  - \*会場はすべて桜台第二保育園ホールです。
  - \*保育園の行事に参加ご希望の方は、いずれの園も、お手数ですが事前にご連絡ください。
  - 板橋第十小学校あいキッズ
  - お楽しみ会…ただじゅん企画 12月22日(金)15時
  - あいキッズ1/2卒業式(仮称) 3月15日(木)15時



# 歌（うた）

子どもたちが歌で輝く瞬間



朝、5歳児と0歳児がホールにつどい、歌を歌いました。大好きな「秋の空」「カエル大行進の歌」など、5歳児の歌にあわせ、手をパチパチする0歳児

陽光会の保育を紹介する新シリーズです。

「歌」といえば思い出す場面があります。4年前の年長児クラスの劇の取り組みで、アイヌ民話『オキクルミと悪魔』を題材に、後半は歌を中心に劇を進めることにしました。途中で歌う「アメマスひるねのそのひまに」の歌は、歌の役の子が3人だけで歌うことになりました。その役は、みんなです。

「声ですてきたから」と推薦して決めた役でした。

## 年齢ごとに楽しみはさまざま

歌はいつも生活のなかにあります。その楽しみ方は年齢ごとにさまざまです。0歳児（ひよこ組）の子どもたちは、「トントントント」と手の振りが楽しい「森

3人のうちのひとりIちゃんは、普段からゆつくり考え、納得のうえで動き始めるため、どうしてもみんなから遅れてしまい、行事の取り組みにもなかなか入りにくい姿もありました。みんなに勧められてなった歌の役。私は内心「歌えるかな……」と心配でした。ところが！ 初めての練習で「アメマスひるねの〜」と歌いだしたのです。その歌声が、とてもまっすぐで、力強く、心に響き、鳥肌が立ったのを覚えています。本番も、3人も歌の役の大切さをよくわかっていて、てれくささを乗り越えて歌ったその歌声に感動させられました。まさに子どもたちが歌で輝いた瞬間でした。

# ワン・ツー・スリー 0のびのび体操 1・2・3

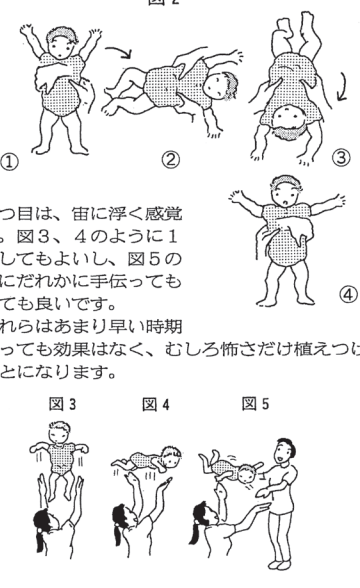
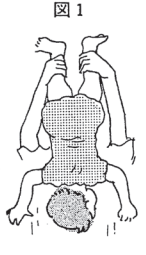
赤ちゃんからリズムへ  
東京・陽光保育園 小内 康寛

## 第6回 赤ちゃん体操の仕上げ

1歳半〜2歳ぐらいまでで反射はどんどん消えていき、脳でコントロールする運動に切り替わっていきます。赤ちゃん体操もそろそろ終わります。赤ちゃん体操は赤ちゃんからすればやってみようものですが、これからは「自分で考え、運動する」というやり方に全面的に変わってきます。その切り替え時に大事な運動があります。それは、赤ちゃん自身はできない運動なのです。とくに、お父さんの出番ですよ。

一つ目は、逆さ感覚です（図1）。ぐずぐずしていると身構えてしまいますので、体操中、あるいは終了直後に素早く両足をもち逆さにします。

二つ目は、回転です。赤ちゃんの腹の下をもち、回転します（図2）。このときのコツは自分の方が腕を左右クロスして赤ちゃんのわきの下を持つことです。④の次は逆回転を。



やってみよう体操から自分で考え、運動する、に

\*『新婦人しんぶん』2000年9月21日号掲載

## 追悼 片山高司さん



片山高司さん  
1927年横浜生まれ。二男一女が陽光保育園を卒園。1967〜94年 年度社会福祉法人陽光会理事、1995〜2005年度同理事長。2017年7月永眠。

長年にわたり陽光保育園および社会福祉法人陽光会のために尽力してくださった片山高司さんがこの夏、逝去されました。謹んで哀悼の意をささげるとともに、お別れの会での弔辞（紙面の都合で一部割愛）を掲載させていただきます。

弔辞  
片山高司さん、長い間ありがとうございました。社会福祉法人陽光会が、初代理事長の故平沢静子さんと片山さんがいらっしゃらなかったら存在していません。陽光保育園の始まりについて、陽光保育園創立60周年記念誌「明日にむかって」の中で片山さんは教えてくれました。

「戦後まもなくころ、空襲で焼けだされ、食料も衣服も足りない毎日のなかで、子どもを育て、家族が生きていくために、懸命のかじや」の歌が大好きです。手をパチパチさせ、マネっこがとても上手です。ちよっと寂しくなったときも、歌が始まると楽しくなって、いつの間にか笑顔になります。



可愛く、見守ることにしました。生活のなかで誰かが歌い、1人、2人と声が増えていき、みんなで声を合わせて歌う。すると……、不思議と楽しくなって、笑顔があふれる。歌にはそんな力があると思います。これからは子どもたちが主役になれる歌、物語のある歌、心が弾む歌を子どもたちと歌っていきたくです。

命に働く母親たちの強い願いと、戦時中の抑圧された運動から解放された保育者の熱い思いが青空保育で結びつき、地域の保育園として発展していきました」と。

片山さんは社会福祉法人陽光会創立当初から理事を務め、その後、理事長を10年間務められました。理事長退任後も、陽光保育園に顔をだし、子どもたちの様子を見たり、職員に昔の話をしてくださるなど、よく気にかけてくださいました。

「どの子も分け隔てなく育む保育をする」という理念のもとに生まれた陽光保育園。陽光を受けてまっすぐに育つひまわりのように、子どもたちも元気にすくすくと育ってほしいという願いを込め、「ひまわり」を陽光保育園のシンボルにしました。陽光保育園を愛してくださった片山さんに、今日はそのひまわりをみながら献花していただくことにしました。片山さん、さよなら、片山さん、どうぞ安らかに眠ってください。そしてこれからも天国から見守ってください。

社会福祉法人陽光会理事長 田辺弘子

## 幼かったあの日、心細かった疎開生活

小西 早苗



終戦の日。抜けるように青い空に真っ白な雲が浮かび、蟬の声だけがひびいて時が停止してしまったような屋下がり、私たち子どもは、井戸に放りこまれた真っ赤に熟れた冷たいトマトをつるべすくい上げて、むしゃぶりついていました。青くさくてそれまで食べられなかったトマトでしたが、なぜかその日から大好きなものにランク入りした記念日でもあります。

東京の父母から離れて幼い妹と2人だけで茨城の父の実家にあずけられた私たちは、ひもじさはないものの、それまでほとんど交流のなかった暗くて大きな農家の中で、自分たちの居場所を見つけるのも大仕事でした。血縁があるとはいっても方言もよくわからない大人たちに囲まれて、心細さははなばではありませんでした。

時折、祖父と父が交替で、食糧調達を理由に訪ねてきました。泣きそうになるほどうれしくても、大喜びしたらわるいような気がして、控えめに喜びました。父をまん中に床を並べて寝るとき、日本の昔話を聞かせてくれるのがとても楽しみでした。父が東京に帰るときには2人も傍らを離れないので困ったことと思います。すきを見つけて父が居なくなってしまうと、涙がこぼれそうになるのをこらえながら、さりげなく家の中をさがして、ああやっぱり帰ってしまったのだとあきらめたものでした。

父も祖父も帰り道は辛く、涙をこらえながら野良道を歩いたとよく話してくれました。2人ももとうに他界してしまいましたが、思い出すと今でも胸の奥がツンとします。

東京大空襲の夜の空。今でも思い出せます。お芝居の書き割りの背景のように真っ赤でした。3歳の妹はその夜、40度の熱を出しました。大人がひそひそと話す東京の様子を小耳にはさんだのだと思います。父も母も死んで家も焼けてしまったら、私たちは田舎の子になるのかしらと不安でいっぱいでした。小さい妹を守ってしっかりしなければと自分に言い聞かせていたような気がします。

幸い家は焼けず、父母も無事でしたが、明るい電灯の下の暮らしがかけがえのない幸せなものだとしみじみ思いました。

(板橋区在住 / 79歳)

## お父さんの出番です!!

「正常が頂上だ」

仕事を終え、会社を後にする。急いで地下鉄に乗る。電車を降り、駐輪場で自転車を乗る。向かう先は、保育園。連絡帳、ハンドタオル、使用した衣類に、おむつ。荷物をまとめ、娘がいるE30組のドアを開ける。

「こんばんは。……あれ、コハルがいない?」

「そうなんですよ、さっきまでいたんですけどねえ」と保育士の先生。

「あれ、どこに行ったんだらうな?」ワザとらしく、きょろきょろと周りを見回す。しばらくすると、柵の陰から娘が嬉しそうに顔を出す。

「コハル、そんなところにいたのかあ!」

「二〇二〇しながら、娘が駆け寄ってきたよ。」

「ありがとございしました」と私。「はいばーい」と娘。

私に見つけてもらったのを楽しみにしているようで、私が迎えにいくと、娘はいつも身を隠し、毎日このようなやり取りを交わす。保育園を後にし、あいキッズに向かう。

「こんばんは」あいキッズのドアを開ける。

あいキッズのお兄さんが「タカキ、お迎えだよ」と呼びかける。

しばらくするとお兄さんが現れ、折り紙を投げて渡す。

「何これ?」と私。「ヘラクレス」嬉しそうに、得意そうに答えるお兄さん。

「あいキッズで教えてもらったの?」そう?

自転車の前に娘、後ろに息子を乗せて、家を目指す。

「今日あいキッズで何したの?」「サッカー」「他には?」「ずっとサッカーしてた」最近の息子の流行はサッカー。友達とずっとサッカーで遊んでいるのが楽しいようだ。あいキッズに行ったら、「ずっと穴掘りしてた」と言っていて、泥んこになって帰ってきた4月が懐かしい。

私が時間短縮で働いているので、日々子供たちの迎えに行く。仕事後に子供たちと一日の出来事を話し、家族みんなで食事できる日々。

「正常が頂上だ」恩師の言葉を噛み締める。

(板橋区在住・天婦の父 藤田博司)

可愛く、見守ることにしました。生活のなかで誰かが歌い、1人、2人と声が増えていき、みんなで声を合わせて歌う。すると……、不思議と楽しくなって、笑顔があふれる。歌にはそんな力があると思います。これからは子どもたちが主役になれる歌、物語のある歌、心が弾む歌を子どもたちと歌っていきたくです。